

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	一部に弱さがあるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約等の影響がみられるなか、自動車関連を中心に回復の動きに一服感がみられる	供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに改善しつつある	↗

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	おおむね横ばいとなっている	弱含んでいる	↘
公共事業	前年並みとなっている	前年を下回っている	↘
輸出	緩やかに増加している	緩やかに増加している	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、横ばいとなっている。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、増加している。百貨店販売は、緩やかに回復している。家電大型専門店販売は、弱い動きとなっている。ホームセンター販売は、弱い動きとなっている。乗用車販売は、供給面の影響により、弱含んでいる。旅行取扱高は、国内向けを中心に、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価上昇の影響により、お値打ち商品へ需要がシフトするなど節約志向が見られるものの、買上点数もそこまで変わっておらず、消費者の購買力はそこまで落ち込んでいないとは感じない。(スーパー、大企業)
- 気温上昇や外出増加に伴い、化粧品や飲食料品等の売れ行きが好調。調剤(処方箋)も引き続き伸びており、コロナ第7波の影響で鎮痛剤や除菌商材等衛生用品の売れ行きが好調であった。(ドラッグストア、大企業)
- 今年は行動制限がなくお盆時期の帰省があったため、手土産としての菓子が好調であったほか、特選衣料・高額品が引き続き好調で、加えて値上げ前の駆け込み需要も見られる。(百貨店、大企業)
- 受注は堅調に推移しているが、納期の遅れは日々大きくなっており、いまだにピークとなっている実感はなく、影響はしばらく続きそうな見込みである。(乗用車、中小企業)
- コロナ第7波により売上が前年比で大きく縮小したものの、感染拡大に落ち着きが見られてからは増加幅が拡大しており、国内旅行先は県外比率が日を追うごとに高まっている。海外はほとんど取り扱いがない。(旅行、中小企業)
- コロナ第7波があったものの、行動制限がなかったため、客足は好調。宴会需要なども増えてきている。今後は人流の増加により、さらに来店客数が伸びることに期待している。(飲食サービス、大企業)

### ■ 生産活動 「供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる」

自動車関連は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。航空機部品は、海外航空機メーカー減産の影響により、引き続き、低調に推移している。金属工作機械は、国内外の受注が堅調に推移していることから、生産は回復している。半導体集積回路は、足踏みの状況にある。液晶は、下げ止まっている。プラグは、横ばいとなっている。開閉機器、電動機ともに、緩やかに持ち直している。普通鋼は、おおむね横ばいとなっている。特殊鋼は、引き続き、弱い動きとなっている。

- 半導体不足等の影響により減産幅が大きくなった4-6月期と比較すると、緩やかに生産は回復しているが、今後も部品不足等で先行きを見通せない状況が続くと見込んでいる。(輸送機械、大企業)
- 半導体製造装置向けを中心に国内外の受注が高い水準が続いている。生産設備の稼働率を上げて増産したいところであるが、部品不足等の影響によりこれ以上の増産が難しい状況となっている。(生産用機械、大企業)
- 市況の悪化等を背景として、需要が弱くなっている。本来であれば、生産稼働率を上げる時期であるが、例年ほどの稼働とはなっていない。(電子部品・デバイス、大企業)
- 4-6月期は中国ロックダウン等の影響で部材確保が難しく、工場の稼働率が下がっていたが、足下では部材調達状況が改善しており、稼働率が上がっている。産業機械向けを中心に受注が増加しており、さらに稼働率を上げたいが、部材確保の状況次第というところ。(電気機械、大企業)
- 完成車メーカーからの受注は戻ってきているが、受注が減少していた時期の在庫を抱えているため、稼働率を落としての操業が続いている。(鉄鋼、大企業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

新規求人数が緩やかに増加していることから、有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は低水準である。

- 稼働率の上昇で人手が不足しているため、派遣社員の確保に努めているが、自動車関連でも稼働率が戻っているように人材の取り合いとなっている。(電気機械、大企業)
- コロナ禍で人員調整を実施した宿泊業を中心に、時給を上げて人員確保の動きが見られるなか、時給の水準で劣後し人手が集められないでいる。(小売、中小企業)
- コロナ禍で制限されていたイベント等が再開されてきたことにより、警備業の求人が見られるようになってきた。(労働局)
- 宿泊業・飲食業において、7月8月の夏休みシーズン、9月の連休に向けた人材確保の動きがみられ、新規求人が増加した。(労働局)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、木材・木製品が減少となるものの、輸送用機械や情報通信機器などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 非製造業では、建設や不動産が減少となるものの、運輸などが増加となることから、増加見込みとなっている。

➤ 生産の維持や合理化のための投資に加え、新規事業やカーボンニュートラルの実現に向けた戦略的投資を行っている。(輸送用機械、大企業)

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、窯業・土石や食料品などが減益となるものの、輸送用機械などが増益となることから、増益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設や情報通信などが減益となるものの、運輸が黒字となることやサービスなどが増益となることから、増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(4年10-12月期)は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、持家の減少傾向が続いているほか、分譲住宅も前年を下回っていることなどから、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、県、国が減少していることなどから、前年を下回っている。

■ **輸出** 「緩やかに増加している」

- 輸出(円ベース)は、緩やかに増加している。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「件数は前年を下回っている」

### 3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
岐阜県	供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている	持ち直している	↗	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	持ち直している	緩やかに回復しつつある	↗	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
三重県	供給面での制約等の影響が残るものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、海外需要の動向により一部で調整する動きがあることなどから、全体ではおおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。